

■久生十蘭 小説家。舞台を指向しながらも、直木賞に続いて、米紙主催の国際短編小説コンクール一席という文才。

ひさおじゅうらん

教科書疑獄・1902＝ 北海道函館で、長男に生まれる。本名阿部正雄。父は不詳、母鑑は草月流の生花師匠。3つ上に姉輝子。生家は5つ年少の亀井勝一郎の隣家にあった。

日露戦争始・1904＝ 2歳：父が死去し、以後、回漕業を営む伯父阿部新之助に養育される。

日露戦争終・1905＝ 3歳：

アラビヤ 創刊・ 1908＝ 6歳：(前年に代用教員として石川啄木が奉職した)函館区立弥生尋常小学校に入学。

大逆事件判決1911＝ 9歳：

明治天皇没・ 1912＝10歳：

21ヶ条要求・1915＝13歳：函館中学校入学。先輩に長谷川梅太郎、渡辺紳一郎、後輩に水谷準、亀井勝一郎、長谷川四郎。

中退して上京、東京、鎌倉を彷徨する一方、芥川龍之介に私淑し、文学書を耽読。

ベルリン条約・1919＝17歳：聖学院中学を卒業。帰郷して長谷川梅太郎の父が経営する{函館新聞}に入社。先に入社していた啄木の女婿石川正雄を識る。ギター、マンドリン演奏に秀でる。演劇に興味を抱き、姉とも影響しあい、

大暴落・・・・1920＝18歳：

原敬首相暗殺1921＝19歳：

水平社結成・1922＝20歳：函館素劇研究会の巴里座公演に出演。函館毎日新聞社主催の第1回童話劇発表会では演出面で参加。

関東大震災・1923＝21歳：素劇研究会、童話劇研究会を母体に、石川正雄らと_{生社}結成し、

護憲三派圧勝1924＝22歳：_文芸同人誌{生}を創刊。第2号に詩8篇を発表。

円本時代始・1926＝24歳：_{生}に、小説処女作「蠶」を発表。この頃、戯曲処女作「九郎平の最後」も発表。

金融恐慌・・・・1927＝25歳：{函館新聞}の“文芸週欄”に最初の署名記事「アヴオグルの夢」。以後、変名も含め多数執筆するが、演劇熱いよいよ昂じ、退社し上京。友人の伝手で岸田国士に師事、新築地座土方与志の演出助手となる。岸田創刊の{悲劇喜劇}の編集に従事。{生}に「亡霊はTAXIに乗って」発表、芥川「歯車」との類似指摘される。

世界恐慌・・・・1929＝27歳：_演劇研究のため渡仏、なぜかパリ物理学校に入学、レンズ工学を学び、神経衰弱になって南仏に移り、モンテカルロでルーレットに精出す。母も来仏し、パリで生花個展。パリ市立技芸学校音画科に入学、同校付属の俳優学校で、新劇界の重鎮シャルル・デュランに師事。

満州事変・・・・1931＝29歳：_卒業し、帰国。新築地座演出部に入るも排斥される。

国際連盟脱退1933＝31歳：_オセロー」を演出。{新青年}に*読み物「ノンシャラン道中記」の連載始めて、デビューし、

帝人疑獄事件1934＝32歳：_芥川直木賞始1935＝33歳：岸田国士「職業」を演出。{新青年}に_始めて本格的な小説「黄金遁走曲」を連載、以後、諸誌に小説を発表。

二二六事件・1936＝34歳：岸田の推薦で明治大学文芸科講師(演劇論)となる。{新青年}連載の_「金狼」で初めて“久生十蘭”名を使用。

日中戦争始・1937＝35歳：「黒い手帳」「魔都」連載、「湖畔」は江戸川乱歩に推奨される。軽井沢の山荘入手、以後毎夏、執筆に赴く。

健保+総動員 1938＝36歳：文学座第1回公演シュール・ロマン「クノック」を演出。同第4回の内村直也「秋水嶺」を岸田国士と共同演出。

第二次大戦始1939＝37歳：六戸部力名で「顎十郎捕物帳」連載。*第1回”新青年読者賞”受賞した「キャラコさん」刊行。

大政翼賛会・1940＝38歳：谷川早名で「平賀源内捕物帳」連載。

日米開戦・・・・1941＝39歳：「生霊」。冬青座のために脚本4本執筆。

・・・・・・・1942＝40歳：舞台座で自作「鰯雲」演出。岸田国士の大政翼賛会文化部長就任に伴い文化部囑託となる。大仏次郎夫妻の媒酌で、三ツ谷幸子と結婚。

創価学会検挙1943＝41歳：海軍報道班員として南方に派遣される。「垂墨利加討」「紀ノ上一族」。

年金+総武装 1944＝42歳：帰国。「内地へよろしく」連載。

敗戦・・・・・・・1945＝43歳：北海道新聞に「祖父っちゃん」連載。銚子に疎開、さらに会津若松に疎開、

新憲法公布・1946＝44歳：「南部の鼻曲り」「皇帝修次郎三世」「ハムレット」。

新憲法施行・1947＝45歳：「水草」「おふくろ」「予言」。上京。

極東裁判決・1948＝46歳：「骨仏」、読売新聞に「コニ泉アリ」連載。

三大事件・・・・1949＝47歳：「春雪」「復活祭」「風流旅情記」。

朝鮮戦争始・1950＝48歳：「ノア」「勝負」「無月物語」。

独立回復・・・・1951＝49歳：「猪鹿蝶」「玉取物語」、朝日新聞に「十字街」連載。_「鈴木主水」で

メデー-事件・ 1952＝50歳：「うすゆき抄」「重吉漂流記」「美国横断鉄路」、戦前の同名作を改稿した「湖畔」。_直木賞受賞。

TV放送始・・・・1953＝51歳：「我が家の楽園」「天国の登り口」。*{ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン}主催の国際短編小説コンクールに吉田健一英訳で応じた「母子像」一席入選。

自衛隊発足・1954＝52歳：「真説・鉄仮面」連載、「海と人間の戦い」。

55年体制始・1955＝53歳：「ボニン島物語」「あなたも私も」。

国連加盟・・・・1956＝54歳：「雲の小径」「無惨やな」「春の山」「川波」「奥の海」「虹の橋」「一の倉沢」。

なべ底不況・1957＝55歳：「呂宋の壺」「雪間」「肌色の月」、戯曲「喪服」、絶筆「いつかまたあう」。NHKラジオ放送ドラマ「下北の漁夫」の調査のため浅虫・野辺地に旅行後、食道癌で_没した。